

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070001021		
法人名	社会福祉法人 初栄会		
事業所名	グループホームほがらか		
所在地	福岡県田川郡赤村大字内田2234-1 (電話) (0947)-62-3707		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果確定日	平成23年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

豊かな自然の中で、静かに日常を過ごすことが出来る。今の利用者それぞれ、おかれている状態の中で見守りや付き添いを行い、安全に生活を送っている。また、趣味や出来ることを役割として続けてもらい、生き甲斐ある日々を送ってほしい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年1月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

特別養護老人ホームを母体とし、その他入所施設、デイサービス、居宅サービス等に併設された木造平屋建ての事業所は、木の温もりが感じられ、共有スペースは広く、利用者一人ひとりが思いおもいに、ゆったりと落ち着いて過ごすことができる雰囲気づくりが感じられる。事業所は、地域住民の相談に個別で応じたり、地域の若い人材を雇用・育成する等、地域とのつながりを大切に、交流が図られている。また、法人全体で職員の資格取得を推奨し、教育訓練体制に力を注がれ、事業所職員は働きやすい職場環境が整えられている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域での生活支援」の視点を取り入れ、会議の時に、どのように実践していけば良いかを話し合い共有している。実践では地域の敬老会や文化祭に参加し、地域に根ざした事業所作りに努力している。	事業所独自の理念に、地域密着型サービスの視点が含まれている。職員は会議時等に理念の実践について話し合っており、地域行事へ参加する等、実践に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での文化祭や敬老会への参加、近隣の清掃活動への取り組みを利用者と一緒に行っている。	事業所便りを回覧し、夏祭りや文化祭、清掃活動等、地域行事や活動へ参加し、また事業所主催の行事に地域住民を招待する等、地域との交流に努めている。また、定期的に保育園と交流があり、隣近所の人と散歩時には気軽に挨拶や声かけし、日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民や家族、保険者から相談があれば、個別的に訪問や電話相談を受け付け、介護保険制度、認知症介護に対する助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告、行事、防災等の内容を議題とし、各委員からの助言やアドバイスを受けて実践につなげている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者やサービスの現状、外部評価への取り組み状況等を報告し、成年後見制度に関する情報提供を行う等している。委員からは、災害時における地域との関わり等について意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護更新申請時、その他諸手続きの際は市町村担当者と情報交換を行っている。また、年に1回の事業所調査時には事業所の問題点や課題点があれば、互いに意見交換している。	管理者は、事業所便りを持参して行政窓口へ出向く等し、事業所の現状報告・相談等を行っている。事業所主催の行事開催時には行政から協力が得られる等、協力関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各部屋、玄関の施錠はせず、年に1回は身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束による弊害の理解や自分の身に置き換えて考えるように提言している。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、内部・外部研修を行っている。研修記録等がある。居室及び玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、職員間で見守り、声かけをしている。併設施設職員、駐在所、宅配業者等に見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会にて高齢者虐待防止についての内容を取り入れ、身体的なものだけではなく、言葉や態度にも十分気をつける様に各スタッフで注意しあえる環境にしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で権利擁護事業や成年後見制度について事業内容や活用方法について学んでいる。運営推進会議での情報提供も行っている。	権利擁護に関する内部研修に参加し、他職員へ伝達研修をしている。パンフレット・研修記録等がある。利用者・家族等へは、利用開始時や運営推進会議時に制度について説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、契約書をもとに説明を行い、理解を得ている。具体的に分かりやすい言葉で説明をするように心がけている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対して、日頃からコミュニケーションをとり、要望、意見を言いやすい環境作りに努力している。要望、意見があれば会議、ミーティングにて話し合い、実践している。	利用者および家族は、運営推進会議に出席し、意見や要望、苦情などを述べる機会がある。また、職員は、家族来訪時に意見や要望を聴取するよう声かけに努め、利用者が日常的に意見や思いを伝えられるよう声かけ等、努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、ミーティングの際に、取り組んでいきたい事や各スタッフが思う事業所の姿を提案してもらい、運営に活用している。	管理者と職員は、会議時等にケアサービス・自己評価・運営等について話し合い、共に考え、取り組んでいる。職員の意見で掲示物作成を見直す等、運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理職会議等で職員の状況報告を受け、本採用の時期や給与について検討する場を作っている。また、勤務時間や休みは負担が偏らないように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用に関して、性別や年齢で判断せず、面接時にやる気のある職員を採用する。また、各スタッフもボランティア活動や外部研修等への参加希望があれば、積極的に参加が出来るようにしている。	職員の採用にあたっては適性や意欲を重視し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。また本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員が資格取得できるよう教育訓練体制の充実等、学ぶ機会を確保している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体会議、勉強会で人権学習を行い、人としての倫理やモラル、相手を思いやる心を持ってもらう様にしている。	人権に関する内部・外部研修に職員が参加し、他の職員へ伝達している。人権に関する研修記録、資料がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス概要にそって、人材育成計画の推進、各職位に必要な勉強会の開催を行い、学ぶ場を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に入会し、各事業所との勉強会や日々の連携を密にしている。また、困ったことがあれば、いつでも相談をしあえる関係を築いている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とはサービス利用前に面談を行い、不安な事や望む生活を傾聴し、支援できる事を説明することで、不安の軽減に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が事業所に望む事や利用者に支援して欲しい内容を聞き、支援の具体策を提案することで、不安を軽減し、良好な関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所のサービスに捉われず、介護支援専門員との連携のもと、公的、非行的サービスの何が必要かを検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに出来る事を見つけ、スタッフ、利用者同士が支え合う関係を作っている。配膳やテーブル拭きをしてくれる利用者には「ありがとう」を忘れないようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や広報にて近況を説明し、家族の協力が必要な時はすぐに依頼をしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人への面会を打診したり、ドライブの際には住んでいた場所を通ったりしている。	管理者・職員は、利用開始時に利用者、家族、関係者から聴取し、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所について把握している。電話のやり取りや馴染みの場所へドライブする等し、これまでの関係が途切れないよう努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが全ての利用者の橋渡し役となり、利用者同士でも交流が続けられるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	敬老会や病院、役場で顔合わせた際は、近況を確認し、困った事はないか、体調に気をつける旨の声をかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族からの聞き取りをもとにアセスメントを行い、希望や要望にそった生活を支援している。	利用者の表情や行動、しぐさ等から本人の思い等を推し測り、また声かけて希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族等や関係者から情報を得て本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当の介護支援専門員に生活歴や利用サービス状況を確認し、日々の生活に反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活歴や性格、身体、精神面を総合的に把握し、現状に変化がある場合は、速やかにミーティングにて話し合う機会を設けている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の望む生活、家族、今の状態に応じて、話し合いを行いながら、介護計画の立案を行っている。	介護計画は本人、家族、職員等の意見を反映し、個別具体的に作成している。計画の見直しは3ヶ月に1回に行い、状況の変化により随時見直しをしている。介護計画作成後は家族等へ説明し、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の生活記録より変化や気づきを抽出し、介護計画実行シートと併せて、見直し時の参考としている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的なニーズには柔軟に対応し、家族や保険者、併設施設の協力を得ながらサービスを提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所として、様々な地域資源との良好な関係を築き、必要があれば、速やかに活用が出来るようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医の変更はせず、受診を支援している。状態に変化がある場合もかかりつけ医に相談し、適切な病院を紹介してもらっている。	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。受診時の通院助助や情報伝達の方法について話し合い、合意している。家族等の状況に応じて、臨機応変に支援し、受診の報告は電話や来訪時に行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携事業所の看護師との情報交換を密にし、そのデータや日頃の生活状況を受診時は申し送り出来るようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には週に1回は面会に行き、状態の安定が予想された場合は、家族、ソーシャルワーカーとの連携により、退院が出来るようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の介護の方向性に関しては、契約時や面会時に本人や家族と協議し、併設施設の協力を得て対応を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用開始時に利用者や家族等へ説明している。利用者本人の状態を見ながら、家族、職員、主治医で話し合い、方針を共有し、併設施設とも連携を図りながら支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時には、併設施設の協力を得て速やかな対応となっている。人命救助、応急処置の勉強会を行い、緊急対応マニュアルにそって速やかに対応出来るようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて災害時避難の協力を依頼し、日常的な挨拶や声かけにより良好な関係を築いている。また、避難誘導訓練を行い搬送方法のシュミレーションを行っている。	マニュアルを作成している。年3回、消防署及び地域住民の参加協力を得て、避難訓練を実施している。非常用食料・飲料水・寒さをしのぐ毛布等の備品を準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ、会話時にはゆっくりと優しい口調を心がけている。また、入浴、排泄時のプライバシー保護を徹底し、排泄確認も周囲を確認したうえでやっている。	管理者は、職員の言葉かけや対応について、利用者一人ひとりの誇り等を損ねないように日頃から指導している。職員は、法人全体での研修や外部研修で個人情報やプライバシー確保について学ぶ機会があり、意識向上を図っている。研修記録等がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの判断で物事を決めるのではなく、利用者に声かけ確認を行い、答えが出るまで待つて対応を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、レクリエーション活動等への参加は強制せず、好きな時に食べたり、入浴したり出来る支援を心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は利用者を選択してもらい、整髪、衣類の乱れは見守りの中、随時スタッフが整えている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊飯、盛り付け、配膳、片付け等、スタッフと利用者一緒に行い、食に対する楽しみを持ち続けてもらっている。	職員は利用者と一緒に準備や片付けを行い、利用者と同じ食事を同じテーブルで食べる職員と見守り介助に徹する職員に分かれて支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の栄養士が確認を行い、食事を提供している。食事摂取量、水分摂取量の記録を取り、低栄養、脱水症にならないように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態、義歯の有無で歯ブラシ、ガーゼ、スポンジを用意し、口腔内に合ったケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時声かけにてトイレ誘導を行い、トイレやポータブルでの排泄が続けられるようにしている。	職員は、利用者一人ひとりのサインを把握している。排泄チェック表を作成し、利用者及び家族等と相談しながら、排泄の自立を意識したケアに取り組んでいる。失禁の際は、本人の自尊心を傷つけないよう、さり気なく対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに食物繊維の多い物を提供し、水分補給を充分行っている。また、リハビリ、散歩等にて活動的な日常を過ごすことで、便秘解消への取り組みを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日出来る状況であり、拒否があっても曜日や時間を変更しながら、声かけにて入浴を促している。	利用者一人ひとりの希望や状況等に応じて、いつでも入浴できるよう支援をしている。入浴拒否の利用者へは、タイミングを計り、声かけ等を工夫して、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子やソファ等があり、利用者それぞれが落ち着く場所がある。スタッフは見守りを行い、傾眠傾向の時は部屋で休んでもらうように促している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容、作用、注意事項を各個人ファイルに綴り、いつでも確認出来るようにしている。また、変更があった際は様子観察を行いミーティングにて確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味(食事の片付け、洗濯物たたみ、編み物等)から日々の生活の中で取り組みを行い過ごしてもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭での散歩や菜園の手入れ、ドライブや受診の帰りに、馴染みの場所に寄る等により、外出の支援を行っている。	利用者一人ひとりの希望や体調、天候等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブ、外食等支援している。桜やコスモス等、季節の花見や季節の催し物の見学等、普段は行けないような場所への外出も支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る利用者は小遣い程度の金額を持ち、受診帰り、買い物時に自分で必要な物を購入してもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話依頼があれば対応している。手紙のやり取りはないが、希望に応じ、対応していく。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節的な飾り物をしたり、すぐに場所がわかるような掲示をする事で、過ごしやすくしている。窓の開閉やカーテンの使用、空調に関しては、利用者に確認して調整をしている。	共用の空間は、ソファ等を配置し、利用者の活動写真を飾り、家庭的雰囲気がある。居心地よく過ごせるよう工夫している。光の強さはカーテンで調節し、音の大きさにも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルを設置し、一人や少人数で過ごすことが出来る状況にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れている物や好きな飾りを自由に部屋に設置してもらっている。	居室は、利用者及び家族が選んだ新しい家具や目覚まし時計・ラジオ・冷蔵庫等、使い慣れた物を持参している。また、利用者の馴染みの小物や家族写真等を飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの造りになっているが、見守りか介助が必要かはその時の体調や状態に応じて行い、安全に過ごす事が出来るようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない